

特別企画

Special Edition

歯科医業の節目を迎えて

At Stand on Turning Point of Dental Works

企画要旨

人生90~100年時代を迎えたものの、現状で元気に活躍されていても定年制度は未だ65歳が一般的で、その節目として大学の職責や医院の長の席を辞され後進に譲られるICDのフェローもまま見受けられるようになってきました。

そこで本号の特別企画として歯科界で活躍されてきて、その節目を迎えられた先生方に、これまでのご専門領域での足跡、今後の展望ならびに後進に伝えておきたい内容について書き綴って頂くこととしました。

いずれもICDのフェローである5名の大学の要職を辞された教授の先生方と1名の自院をご子息に委ねられた先生の所感です。

それぞれその要職は辞されてもまだまだご活躍の余地がある方々の興味あるお話です。

主な内容

■ 昭和大学歯学部の定年を迎えて

井上 富雄

■ 私の残した生きた証

佐藤 裕二

■ San Franciscoで出会った二人の守護神

横 宏太郎

■ 大学院、教員生活を顧みる

坂本 輝雄

■ 多剤併用と歯科医業 —MRONJ発症は誰のせい?—

柴原 孝彦

■ 歯科医師としての50年を回顧して

角町 正勝